



東京金山会通信 No.36

三寒四温。東京では少し汗ばむくらい暖かい日も増えてきました。
学校や職場では新年度が始まる4月。満開の桜も、もう間もなくですね。

【東京金山コラム】Vol.15「麻布」

江戸には、参勤交代での江戸在勤のため、全国の各藩の藩邸がおかれまし
た。新庄・戸沢藩も例にもれず、江戸に藩邸を設けています。
当時、藩邸がおかれた界隈を訪れてみると、緑に囲まれた南麻布の高級住
宅街と各国大使館が居並ぶ街。かつての新庄・戸沢藩邸の跡地は、「在日
フランス大使館」となっておりまして。ひときわ深い緑に囲まれながらも、
大使館ゆえの少々物々しさと、気高いたたずまい。
ふと、その場所を遠くから眺めていると、なぜかフランスに対して、少し
だけ親近感が増した気持ちになります。



【サバの缶詰】

近年ブームと言われる「サバ缶」は、東京でもスーパーなどで様々な種類の商品が多数
並んでいます。
特に最近では、山形の県民食として、全国ネットのテレビ放送でも取り上げられる機会
が多い印象で、観るたびに「ひっぱりうどん」といっしょになど、懐かしく今日の献立に、
と思ってしまう。

問い合わせ

東京金山会 広報担当（藤山善夫）
☎080-5525-0435
✉fujiyama.d.siren@ae.auone-net.jp



新庄・戸沢藩 江戸下屋敷の設置されていた場所
現在の在日フランス大使館

No.194 「森の子ども図書コーナー」 交流サロンぽすと内



『ねんねこ』
(ザ・キャビンカンパニー / 作・絵
小学館)

ねんねこ ねんねこ 10時です 10時です
「子猫ちゃん 早く寝なさい」「眠くないのー！」
「それならママと夢の中で遊びましょ」
お空で待ち合わせはどう？夢だから雲の上まで飛んで
いけるの
海で待ち合わせはどう？夢だから波の上も歩けるの
動物園で 秘密の基地で 絵本の中で・・・
ページいっぱい広がるのは、色彩豊かな想像の世界。
独創的で自由奔放、パワフルで楽しくて、そして優し
い。想像力の羽が大きく広がる、楽しいおやすみ絵本
です。

裏山の「雑木」には知られざ
る値打ちがある。お宝広葉樹
の探し方から、樹種ごとの売
り方・活かし方、放置された
人工林を手に入れるための
技、林床を活かした山菜の自
生地栽培の話題まで。クヌギ
はシイタケ栽培のホダ木や茶
道用の炭に。キハダの黄色い
内皮は生薬の原料……。ほった
らかしなんてもったいない。

「小さい林業で稼ぐ」2
(農山漁村文化協会・農山漁村文化協会)



「参る」と「伺う」には微妙
な使い分けがある」「重たい」
「重たい」で意味の違いは？」
「ら抜き言葉」を見分ける
には？」誰もが一度は戸惑う
日本語の問題が、本書を読め
ばすっきりと理解できるは
ず。長年のモヤモヤが晴れて、
気持ちが一掃になること請け
合いです。

「日本語はこわくない」
(飯間浩明 / P・H・P 研究所)



地域おこし協力隊 通信 No.8 隊員 鈴木 朋広

カムロスキー場での馬の運動

こんにちは、協力隊の鈴木
です。本稿を書いている3月、
カムロスキー場の営業もあと
僅かとなりました。冬の間は、
ゲレンデの一角をお借りして
馬車馬のシエラが、スノーチ
ューブを引っ張ってくれまし
た。スキー場が日中営業して
いる週末には、スキーをして
いた子供たちが、馬を見つ
て遊びに来てくれました。カ
ムロスキー場は天候の悪い日
も多く、毎週末は馬の活動を
できませんでしたが、天気
の良い日、運の良かった子はス
ノーチューブに乗ってシエラ
に引っ張ってもらいました。
「きもちいい」といつま
でも乗っていたい様子でした。
今はすっかり暖かくなり、
雪がザクザクに溶け始めてい
ます。大きな馬は体重で足が
はまってしまつと、ケガをし
てしまいますので、スノーチ
ューブの遊びもそろそろ終わ
りとなります。もう少し経
て雪がなくなれば、春から再
び馬車の練習を始めます。練
習を重ねた後、今年は金山の
街なかをシエラ馬車で走ろう
と思いますので、お楽しみに
！



Facebookで
活動を発信し
ています！
ぜひチェック
してください！



①馬の「シエラ」 ②スノーチューブとこどもたち ③練習中のシエラ

ぶんげい

金山杉俳句会報 第四六二回

星川 キエ子
安堵せる話を聞くや冬日和
一瞬の為に登るや橋すべり
岸 昭子
垣根より棘避け摘みて五架飯
厳寒に曝され大根旨味増し
高橋 洋子
ワイパーの見通し阻む雪風巻き
かわたれに除雪車の唸り睡り解く
鵜沼 よし子
煮凝りや情け床しき町に住む
介護の主力溢るる日脚伸ぶ
阿部 一代
緩やかな坂駆け登る猛吹雪
雛壇に供う白酒散らし寿司
栗田 弥超
春東風に三味引く木立賑わしき
碧空に浮く春雪の富士堂々

かねやま紅風会

荒屋 阿部 勝子
夫婦愛心と和ます春の夢
三月や晴れた夜空の月明り
床の間に飾る活花春を呼ぶ
荒屋 関 喜美子
陽春の弾む心をコロナ止
鉢植の自慢に音でし君子蘭
遅き春眺める山々気の重さ
菅越 庄司 けみ子
早バツケ香りをのせて供へもの
出羽連峰遠く連なる春の山
杉花粉春一番の送りもの
七日町 青柳 キエ子
春の日を体いっぱい深呼吸吸
うぐいすの細き鳴声ひなび宿
梅香る恩師は今も胸の中
七日町 柴田 静栖
ひらひらと舞ひて消ゆく春の雪
絵はがきに一句そへたる春たより
梅の香に癒しいやされコロナ中
上台 阿部 一步
よもすがら声を枯して猫の恋
渦を巻き雪解下る最上川
山寺やコロナが止る雛めぐり